

報道関係各位

2017年11月8日
株式会社サンシャインシティ

サンシャイン水族館 サンシャインラグーン水槽 生物の死亡について

サンシャイン水族館の大水槽「サンシャインラグーン」内にて、本日、2017年11月8日(水)の早朝に、多数の生物の死亡が確認された為、その経緯をご報告いたします。

本日の調査と対応作業により、水槽内の状態は安定したため、明日より水槽の公開を再開いたしますが、水中パフォーマンス(サンタダイブを含む)や餌やり体験、探検ガイドツアーは再開の見通しが現段階ではたっておりません。今後は再発防止に努めるとともに、徐々に個体数を増やし、ラグーン水槽のコンセプトである南国の浅瀬をイメージした美しい水槽にまいります。

サンシャイン水族館
館長 丸山 克志

<記>

<異常が確認された日時・場所・経緯>

日時:2017年11月8日(水) 午前7時27分頃

場所:サンシャイン水族館 「サンシャインラグーン」水槽

経緯:7時27分 巡回警備員よりラグーン水槽の魚が多数死亡しているとの連絡があり、その後すぐに、飼育スタッフがラグーン水槽を確認したところ、多数の展示生物の死亡を確認。酸素欠乏症を疑ったため8時15分より酸素の投入を開始しました。

<死亡した生物の数・内訳>

死亡数 24種 1235個体(トビエイ類、タカサゴ類など)

<生存している生物の数・内訳>

生存数 26種 73個体(トラフザメ、ヒョウモンオトメエイなど)

<原因>

調査の結果、酸素欠乏症の可能性が高いとの結論に至りました。

11月7日午前10時から白点病と疑われる一部の生物の治療として硫酸銅(※1)による薬浴を実施するにあたり、魚病薬の効果を高める為に、同時刻にタンパク質除去用装置プロテインスキマー(※2)の運転を停止しました。水槽設置当初から本水槽の酸素供給はエアリフト(※3)で行っていましたが、水質向上の為にプロテインスキマーを稼働し、その後、酸素は本機からも供給されている状態となっていました。

7日10時からのプロテインスキマーの運転停止後は、生物の様子を慎重に経過観察を継続し、水族館閉館後の18時にスタッフが確認した際には異常は確認されませんでした。その後、20時30分の時点でも異常は認められませんでした。8日早朝に多数の生物の死亡が確認されました。

今回の生物の死亡の原因は、プロテインスキマー停止による酸素供給の減少と考えられますが、水槽設置当初はプロテインスキマーが未稼働でも問題なく生物の飼育ができていたこと、本来酸素供給を担うエアリフトが正常に稼働していたこと、運転を停止した後の経過観察からも水槽内の環境は問題ないという認識でした。

このような事態が再度起こらないようにエア供給装置の増設を検討し、再発防止に努めると共に、この経験を今後の対策に活かしてまいります。

※1 硫酸銅

白点病に高い薬効があり、白点病治療薬として水族館で広く使用されている薬品。

※2 プロテインスキマー

飼育水中のタンパク質(残餌、排泄物など)を除去する装置

※3 エアリフト

空気を水槽に送り込み、水を循環させる装置

■「サンシャインラグーン」に関して

大きさ: (横)約 12m ※直線数値(湾曲数値:約 13m)、
(奥行)約 9.6m、(厚さ)130mm
(高さ)約 2.4m ※最深部数値 ※最浅部は約 1.8m

水量:約 240t

特徴:大型水槽としては珍しく水底に白い砂を敷きつめた、
南国の海を感じさせる美しい水槽。
一面に青の世界が広がり、視線を移すたびに、生き物たち
が見せる自然界に近い水中での営みを観察できます。

